



やすい ただお  
安井 理夫 氏

生年月日 昭和10年 8 月11日生

住 所 西牟婁郡白浜町堅田

昭和10年、東牟婁郡四村（現田辺市本宮町湯峯）で生まれ育ち、昭和29年から東牟婁地方の小中学校の教諭を歴任、平成7年に本宮町立本宮中学校校長を最後に退職するまで、40年の長きにわたり地域の学校教育の充実・向上に尽力した。

教職を引退後、氏の父が始めた民宿「小栗屋」を経営（平成29年5月廃業）し、その傍ら当地とゆかりのある「小栗判官物語」の研究、伝承に努める。

「小栗判官」は中世の口承文芸「説経」の最長編の演目である。妻・照手姫の一門に殺された小栗は閻魔大王の計らいで、目も見えず耳も聞こえず口もきけず、歩くこともできない体で娑婆に戻され、相模の国（現在の神奈川県）から熊野まで運ばれて湯峯の湯で癒されて全快する。熊野の強力な浄化力を伝えるこの説経は庶民の人気を博し、熊野への道が「小栗街道」とも呼ばれるようになり、浄瑠璃や歌舞伎などにもなった。

湯峯地区には小栗にまつわる史跡や伝説が残されており、昭和40年代に地元の有志で「小栗会」を結成。小栗判官に関する観光案内板の設置や観光客の案内等を行った。平成3年、小栗判官・照手姫の物語を探求し、後世に伝え残そうと、ゆかりのある岐阜県大垣市、茨城県協和町（現茨城県筑西市）等の有志の人々と「小栗フォーラム」を結成。研究発表や芸能鑑賞、伝承地巡りなどを行う「小栗サミット」を、物語ゆかりの地で開催した。平成18年に小栗フォーラムが製作した有田川町に伝わる小栗判官の口説き節や踊りを収録したDVDの制作では氏が監修に尽力した。平成22年に本宮町で開催された「第13回小栗サミット」、令和元年10月にみなべ町で開催された「第15回小栗サミット」では、実行委員会の代表として中心的な役割を担い、大会を成功に導いた。このほか、平成14年に紀南文化会館で開催された、紀南の高等学校6校による「演劇・オグリ伝説」では、実行委員会の副会長として尽力した。

平成31年3月には『祈りの道 小栗街道 熊野権現参詣道』を刊行。現在は白浜町に居を移し、協力者らとともに印南町から上富田町に至る小栗街道の検証を進めつつウォーキングイベントを計画するなど小栗街道の復元に向けた活動に取り組んで

## 第 52 回 (令和 3 年)

いる。また、民宿経営時には、民宿の一室を「小栗の部屋」と名付け、氏が収集した資料を展示し、「病気で悩む人を温かく迎えた郷土の精神」の伝承に努めた。娑婆に戻された小栗の姿はハンセン病患者がモデルだと考えられ、「小栗街道は社会的弱者が再生を念じて歩んだ道であった」と氏は語る。なお、氏が経営していた民宿の後続経営者も、氏の収集した資料を民宿内で一般展示している。

平成 3 年の小栗フォーラム結成から約 30 年と長きにわたる氏の一連の心血を注いだ活動は、地域の文化振興及び観光振興に大きく寄与しており、その功績は誠に多大である。

### (学 歴)

昭和 29 年 和歌山県立田辺高等学校卒業  
昭和 44 年 近畿大学商経科卒業  
昭和 50 年 近畿大学法学部卒業

### (職 歴)

昭和 29 年 本宮町立四村川小学校講師  
昭和 29 年 三津野村立赤木小学校助教諭 (東牟婁地方小学校助教諭を歴任)  
昭和 36 年 本宮町立四村川小学校教諭 (東牟婁地方小中学校教諭を歴任)  
昭和 58 年 本宮町立三里中学校教頭  
昭和 63 年 本宮町立三里中学校校長  
平成 4 年 本宮町立本宮中学校校長  
平成 7 年 本宮町立本宮中学校校長退職  
平成 7 年 家業の民宿「小栗屋」を継ぐ (平成 29 年廃業)

### (主な活動等)

平成 7 年 熊野本宮観光協会 (平成 29 年退会)  
平成 10 年 熊野本宮語り部の会 (平成 26 年退会)

### (役職等)

平成 3 年 全国小栗フォーラム会員 (会長代行)、小栗フォーラム熊野会員  
平成 22 年 「第 13 回小栗サミット・熊野のつどい」実行委員会代表  
令和元年 「第 15 回小栗サミット・みなべのつどい」実行委員会代表

### (著 書)

『ガイドブック 小栗判官物語』 (平河工業社 平成 22 年)  
『祈りの道 小栗街道 熊野権現参詣道』  
安井理夫 // 著 いこま わかこ // 絵 (小栗フォーラム 平成 31 年)

### (受賞歴)

平成 15 年 ふるさと名人「紀の人賞」(和歌山県)